

平成 29 年 2 月の解説（府県天気予報）

【2 月の天候状況】

上旬は、低気圧が数日の周期で通過し、通過後は冬型の気圧配置となりました。北・東・西日本の日本海側と沖縄・奄美では曇りや雪または雨の日が多くなりました。太平洋側では曇りや雨または雪の日もありましたが、晴れる日が多くなりました。9 日は、本州の南岸沿いを東進する低気圧の影響で、太平洋側でも雪になるところがありました。10 日は、冬型の気圧配置が強まり、西日本を中心に強い寒気が南下しました。そのため、西日本日本海側では大雪となり、西日本太平洋側や九州でも積雪となったところがありました。

中旬は、旬の前半は強い冬型の気圧配置となり、日本海側では西日本を中心に大雪となりました。鳥取では 11 日に積雪が 91cm となり、33 年ぶりに 90cm を超えました。大雪により車の立ち往生や列車の運休など交通障害があったほか、雪の重みによる漁船の転覆が相次ぎました。また、西日本太平洋側や九州でも積雪となったところがありました。旬の後半は、数日の周期で低気圧が日本付近を通過しました。17 日は北海道の北を、20 日は北日本を、低気圧が発達しながら通過したため、各地で暴風となり、気温がかなり高くなる場所もあり、各地で春一番となりました。

下旬は、冬型の気圧配置が一時的で長続きせず、北日本は低気圧の影響を受けやすく、曇りや雪または雨の日が多くなりました。東・西日本は、低気圧の影響で天気の崩れた日もありましたが、冷涼な高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。23 日に低気圧が日本海を発達しながら通過し、全国的に雨または雪となりました。各地で強風となり、関東甲信地方を中心に気温がかなり高くなりました。沖縄・奄美では、前線や寒気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

月平均気温は、北・東日本で高くなりました。月降水量は、西日本日本海側で多く、東日本太平洋側で少なくなりました。月間日照時間は、西日本太平洋側でかなり多くなり、東日本太平洋側と西日本日本海側で多くなった一方、北日本日本海側で少なくなりました。軽井沢（長野県）と熊谷（埼玉県）で月間日照時間の多い方からの 1 位の値を更新しました。降雪の深さ月合計は、北日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側と東日本で少なくなった一方、西日本日本海側で多くなりました。月最深積雪は、西日本で多いところが多くなりました。

【2 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 1 ポイント高い 84% で、明後日予報は例年値より 3 ポイント高い 83% でした。各地方の適中率では、明日予報については、関東甲信地方と近畿地方を除いて例年値より高くなり、特に九州北部地方と九州南部地方で 5 ポイント高くなりました。明後日予報では、沖縄地方以外の全ての地方で例年値以上となり、北海道、東北、東海、九州南部の各地方で 5～7 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2 小さい 1.4 となり、全ての地方で例年値以下となりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2 小さい 1.3 となり、全ての地方で例年値より小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【4 月の天気予報の利用にあたって】

4 月は移動性高気圧に覆われた穏やかな日が多くなりますが、低気圧が発達しながら日本付近を通過して、雨や風が強まって荒れた天気になることもあります。また、多雪地域では低気圧の通過に伴って融雪が一層進みますので注意が必要です。災害をもたらすような荒天が予想される場合は、気象情報や警報・注意報を発表しますので、最新の情報を参照して下さい。